

## TRMM と GOES-W 衛星から観測された深い対流雲の一生に伴う降水の特徴

## Characteristics of rainfall associated with life cycle of deep convection observed from TRMM PR and GOES-W

# 井上 豊志郎 [1]

# Toshiro Inoue[1]

[1] 東大・気候システム研究センター

[1] CCSR, University of Tokyo

東部熱帯太平洋における深い対流システムの発生から消滅についてスプリットウインドウ（11 および 12 ミクロン）によって分類された雲型の観点から調べた。本研究では2001年1月から2002年12月までの2年間について1時間ごとに観測された米国の静止衛星（GOES-W）に搭載されたスプリットウインドウデータを用いた。深い対流システムの発生から早い段階では積乱雲型の雲が支配的で、時間の経過とともに巻雲型の雲が増加することがわかった。今回の解析期間、解析領域の結果からは、ある時間での深い対流システムが発達、成熟、衰退のどのステージにあるかを、深い対流雲域内の巻雲の閉める割合を計算することでその時間に観測された画像のみから定性的に判定できた。対流雲域内の巻雲の割合（ステージ）と降水強度の関係を調べるためにほぼ同時観測されたTRMMの降雨レーダーを用いた。その結果、深い対流システムが発生して早い段階（対流雲域内の巻雲の割合が小さい時期）に降水強度がより強いことがわかった。